

種別	肥料の種類	工程	主な生産工程の概要	植害
窒素質肥料	石灰窒素		石灰石を約1,100（900以上としている資料もあります）で焼成して生石灰とし、これに無煙炭又はコークスを加えて電気炉で約2,200に加熱・融解するとカーバイドが生成する。このカーバイドの粉末を窒化炉で約1,000に加熱して窒素ガスを挿入すると、反応熱により反応が進み、石灰窒素が生成する。生成した塊状の石灰窒素を冷却して粉碎後、水添加及び窒化炉より炉出後に酸化カルシウム又は炭酸カルシウムを加えて製品とする。	

#### ポケット肥料要覧より

窒化炉でカーバイドと窒素とを反応させて製造するもので、炉出後酸化カルシウム又は炭酸カルシウムを使用するものである。主成分はカルシウムシアナミド(CaCN<sub>2</sub>)で、副成分として石灰、炭素、けい酸、ジシアンジアミドを含む。原料カーバイドの品位により窒素21～25%のものができるが、一般には21%のものが多い。アルカリ分として50～60%を含む。生理的アルカリ肥料である。